

ポラリス

札幌社会保険総合病院 院外広報誌

第21号

2011年7月



- 第50回 北辰メディカルフォーラム
- 南三陸町で医療支援を行って
- 医療の現場から
- 看護の日
- こんにちは 医療連携・相談室です
- リンパ浮腫ケア外来のご案内
- あつこい in 札幌社会保険総合病院

ポラリスの由来

ポラリスは北極星を意味します。当院の前身である北辰病院の北辰もまた、ポラリスと同じ北極星を意味する言葉なのです。北極星のように、北国の中で悠久に燐然と輝き続けたいという願いが込められているのです。題字は秦院長の直筆です。

第50回 北辰メディカルフォーラム

副院長 吉田純一

平成23年5月25日に北辰メディカルフォーラム第50回記念講演会を、シェラトンホテルを会場に開催しました。(共催第一三共製薬) 50回の記念講演にふさわしい方をと考え、札幌医大の島本和明学長をお招きし“北海道における地域医療の現状と課題”と題して講演をいただきました。

座長は新さっぽろ循環器病院の佐々木孝理事長にお願いしました。当日は盛会裏に終始し、参加していただいた方には心から感謝します。(手稻区の知人もいました)

北辰メディカルフォーラムは平成8年9月6日に、当時山口大学第一内科の沖田極教授(現下関厚生病院院長)の講演で始まりました。



以降、年3~5回のペースで開催され50回を迎えてます。この間演者は医師・医学者に限らず看護、薬剤関係者からさらには医学・医療以外の分野からも多数の講演を頂いてきました。平成20年4月は元日ハムの白井一幸氏でありました。皆様には心よりの感謝を申し上げます。

運営に当たっては、世話人、幹事、顧問には当院職員のみならず、厚別区における医療関係の方にご協力いただいています。これまで運営に協力頂いた方々に感謝申し上げます。

代表世話人は、初代が関谷千尋元副院長、次に大西勝憲前副院長、そして私が3代目であります。

50回の間、多くの方に参加していただき大変感謝しております。これからも、さらに皆様のご意見も取り入れ、有意義な勉強の機会としたいと思っています。よろしくお願ひいたします。



南三陸町で医療支援を行って

外来 皮膚・排泄ケア認定看護師
神下美雪

消化器科の小野先生・薬剤部の浅野副部長と私、3人は震災から1ヶ月経過した4月18日、南三陸町で医療支援を行いました。早朝の飛行機で岩手花巻空港に向かい、そこから2時間以上かけて南三陸町に入り、目にした光景は一体ここはどんな町であったのか全く想像が出来ない悲惨な状況、瓦礫と作業する自衛隊の機械的な音と車の音しか聞こえない。そして、自衛隊が集まって手作業しているところは多分、御遺体が見つかったところ…道端におかれている誰かの思い出の品々と、その中から自分たちの思い出を探す人々。あまりに残酷な光景でした。搬入された御遺体も100体以上は未だ、身元が確認されていません。



区を担当している保健師に往診で継続してほしい患者や気になる患者、地区の現状等を話し引き継ぎをおこないました。



私は「皮膚・排泄」という仕事柄か、男性トイレが気になり…男性トイレ（尿の方）は壁がなく、いきなり尿器!! みなさん用を済ませたら手も洗わずに何もなかったかのように退散。その尿器もみんなが通るところにいきなりあるので、目のやり場に困る。洋式トイレ風なものも、ベニヤ板で囲んであるだけでも見え!! それまた目のやり場に困る感じで…女性も、尿と便をするトイレはわかれています、拭いたティッシュは便器に捨てないように、大きなビニール袋が貼られておりそこに捨てるようになっていました。

滞在していた1週間は毎日、余震が続き、経験したことが無いような大きなゆれと地鳴り…（そして、隣の部屋から毎夜聞こえる、大きなイビキ…それも時々、止まつては復活する…多分、睡眠時無呼吸症候群？？そして、もうひと方は、年齢的なものからか目覚めが早く、朝からシャワーで清潔な感じ…？）という日々を過ごしていました。

南三陸町の支援を行ってみて、もし自分が今まで経験したことが無いような震災が仕事中に発生したら、はたして自分は訓練したとありに患者を誘導してトリアージして…出来ると言い切れるであろうか。訓練することの重要さを再認識しました。今、生かされている自分の1日は亡くなった方が生きたかった1日…色々な事を考え感じた1週間でした。

これからも、3・11を忘ることなく、今後、自分の出来ることを継続して行こうと思います。



眼瞼下垂、外斜視、加齢黄斑変性症、網膜剥離の治療を始めました

眼科部長 吉田和彦



高齢化社会に伴い増加している眼疾患に、眼瞼下垂と外斜視、加齢黄斑変性症があります。眼瞼下垂は、まぶたが開きにくくなっている状態です。(図1) 無理に眉毛を持ち上げて眼を開けようとするため、あでこにしわが寄り、疲れます。加齢に伴うものその他、コンタクトレンズ装用、白内障手術によっても起こります。眼瞼下垂は眼瞼拳筋腱膜がはずれていることが原因であるため、元通り縫い付ける手術を行います。当科では炭酸ガスレーザーを用いて手術を行います。炭酸ガスレーザーを使用すると、普通の手術と比べて出血が少ないのが特徴です。手術を受けた方の多くは、「もっと早くやっておけばよかった」とおっしゃいます。顔つきが明るくなって元気がでるようです。



図1

斜視は以前子供の疾患と考えられていましたが、最近はご高齢の方の斜視が増えています。なかでも、普段は斜視でないのに、疲れたりポーっとすると外斜視になる間欠性外斜視が多くの割合を占めています。(図2) 高齢者の外斜視の特徴としては白内障などの進行により外斜視になる頻度が徐々に多くなることです。また、高齢者の外斜視のものが2重に見える、眼が疲れるなどの症状を伴うことも特徴です。間欠性外斜視には、眼を外側に動かす筋肉(外直筋)を付着部で切断し、後方に縫いつける手術を行います。最近ではテリー伊藤さんがこの手術を受けて話題になりました。



図2

加齢黄斑変性症の症状はものがゆがんで見えることです。近年、加齢黄斑変性症に対して血管内皮増殖因子に対する抗体を硝子体内に注射する治療が行われるようになり、当科でも4月より開始しました。

当科では、網膜剥離に対する強膜内陥術も開始しました。網膜剥離の初期症状は糸のようなものが見えることです。そのような症状がありましたら是非ご相談下さい。

看護の日

5月12日は「看護の日」。「看護の心をみんなの心に」をメインテーマとして全国各地で様々なイベントが開催されています。



当院においても高校生の「一日ふれあい看護体験」として札幌第一高等学校・北海道北広島高等学校・立命館慶祥高等学校の10名の高校生のみなさんに看護師の仕事を体験してもらい、イベントに集まつていただいた皆さん前で自ら体験したことを発表してもらいました。



また、ミニコンサートとして北海道教育大学岩見沢芸術科音楽コース卒業のアルトサクソフォン武内美穂さんと川辺美穂さんのピアノによるtheカルメン等の演奏を心地よく聴くことが出来ました。職員からの持ち寄りによるバザーも盛況に終えることが出来、収益は東日本大震災に募金しました。会場となつたエントランスホールには多くの患者さんや地域の方が集まり楽しいひと時を過ごしました。(嶋宮記)



看護体験を終えて

北広島高校 片 石 絵 理

私は生まれてから大きなケガや病気もしたことがなかったので病院に来るだけでちょっと緊張するのに、看護体験をするのなんて初めてで来る前からすごく緊張していました。

私は産婦人科と小児科の方で体験させてもらいました。産婦人科では昨日生まれたばかりの赤ちゃんが2人いました。こんなに小さな赤ちゃんを見るのは初めてで、感動しました。顔のパーツの1つ1つや手や足もまだすごく小さくて、そのかわいさにすごく癒されました。でも、その赤ちゃんたちのお母さんは2人ともすごく辛そうで、人それぞれだとは思うけど、子供を産むことは自分が思っていたよりも大変なことなんだなと改めて思いました。

今日1日担当してくれた助産師さんの仕事を見たり、手伝わせてもらっている経験をさせてもらいました。赤ちゃんを抱っこしたりお母さんの体をふいたり、助産師さんが薬を用意している所を近くで見ることは本当に貴重な経験でした。

今まで看護の仕事のことはすごく漠然としていたので、自分の中でのイメージが前よりちゃんとしたものになりました。そしてやっぱり私は看護師になりたいなと思ったので、これからも頑張っていきたいと思います。



看護体験を終えて

立命館慶祥高校 松 浦 結 実

私は今まであまり病院に来たことがなく、今日この病院に来る時もずっと緊張していました。しかし、実際は全く怖い場所ではありませんでした。むしろ、患者さんとお話しをして元気をもらったくらいでした。特に、来て始めて患者さんに看護の日の記念品を渡した時に、「どこの学校から来たの?」とか「大学受験がんばってね」とか「ありがとう」と言われるとそれまで緊張していたはずなのに、気付けば気持ちがやわらいでいました。



また、血圧や血糖値、酸素濃度をはかさせていただいたり、シャワーのお手伝いをさせていただいたり、普段学校においてはできないようなことをたくさんてきて、有意義な1日になったと思います。

私は将来、人の関わりを感じることのできる仕事に就きたいと考えています。私の思っていた通り、看護師はそれを感じることのできる仕事だとわかりました。看護師の仕事はよく過酷だと言われますが、それでも続けていけるのは、それ以上にやりがいや人の関わりを感じられるのだからかなと思いました。今日の看護体験を参考にして私は進路を決定しようと思います。本当にありがとうございました。

ふれあい看護体験を終えて

札幌第一高校 澄 川 菜 優

今日のふれあい看護体験は、私にとってとても貴重な経験の一つとなりました。私は今日、5階東病棟で看護体験をさせていただきました。初めてのことばかりで不安や緊張が募っていました。看護の日のプレゼント配りから始まり、昼食の運び方や患者さんとの接し方等を学びました。が、私が一番印象に残っているのは、○○さんという方の足を洗わせていただいたことや、○○さんという方のハーバード浴をさせていただいたことです。足の洗い方一つでこんなに笑顔になってくれるんだ。手が触れる、体温が伝わる。当たり前に通り過ぎてしまっているような行為の一つ一つに改めて歓喜を感じました。患者さんの笑顔や言葉は、私の抱いていた不安や緊張を刹那に消してくれました。

私はこの体験を通して、人を見るということの素晴らしさを感じたのと同時に、厳しさや過酷さも知りました。現場に来てみないと分からることは想像していた以上でした。辛さや苦しさを知れたことは、とても良いことでした。逆境に陥ったり、苦痛を経験できるからこそ、この現場で働く人々は人を救う喜びを感じられるのではないでしょうか。

この経験は今後の勉強、人生の最大の糧になると思っています。携っていた看護師の方々、患者さん方、病院の方、本当にありがとうございました。



こんにちは 医療連携・相談室です

日頃、連携をさせて頂いている先生方を紹介します。

医療法人奏健会 さっぽろ厚別通内科

今回は、平成20年4月に開業されましたさっぽろ厚別通内科の院長杉澤憲先生にお話を伺いました。

クリニックは、厚別通に面し、整形外科クリニックと同一の建物となっており、それぞれの専門性を生かし、連携を図りながら診療にあたっておられます。

スタッフの方は看護師5名、事務員2名でやさしい笑顔が印象的です。



院長 杉澤憲先生とスタッフの皆様

●病院の特徴について教えてください

当院は、専門に偏ることなく、性別年齢を問わず、症状も身体の不調のみならず心理社会的問題も含め幅広く診療する「家庭医」として様々な患者様をお受けしております。

今年4月に医療法人化しましたが、地域の医療要求に根ざして調和を持って自在に変化していきたい、地域に住む人々が安心して住み続けられるよう、地域の人々と共に、一緒に年輪を重ねていきたいとの想いから、法人名は「奏健会」としました。

医療設備としては上部消化管内視鏡（経鼻）、超音波検査（腹部、心臓、甲状腺、体表）、CT、MRIなどが可能です。一般診療の他、禁煙外来、在宅医療もしており、厚別区では3番目の在宅療養支援診療所の認可を受けてあります。

日本内科学会の総合内科専門医の他に、肝臓専門医、消化器病専門医、消化器内視鏡専門医などの資格を持ってあります。



明るく暖かな雰囲気の待合室



整形外科クリニックと一体となっています

●医療連携に対するお考えをお聞かせください

総合医療医、家庭医として患者様やそのご家族、地域に責任を持ち、多くの医療要求に主治医として対応します。高度医療が必要な患者様には適切な診断とともに、信頼できる医療機関を紹介し、入院しても当クリニックでの検査データや診断内容などを、患者様の同意の下に入院先での医療が遅滞なく進むよう、情報を提供いたします。また、他院入院中でも患者様やご家族の求めに応じて医師からの説明に同席するなど、主治医としての役割を果たしつつ、基幹病院と密接に医療連携を持っていこうと考えてあります。

〒004-0065 札幌市厚別区厚別西5条1丁目15-21

電話011-895-6671 FAX011-895-6672

ホームページ <http://www.atsubetsudori-oi.jp/>



リンパ浮腫ケア外来のご案内

札幌社会保険総合病院では
『リンパ浮腫ケア外来』を行っています

★リンパ浮腫とは

主にがんの手術などでリンパ節をとりのぞいた後に、リンパ液が滞ることで、手や脚がはれてくることがあります。これをリンパ浮腫と言います。

リンパ浮腫は発症すると完全に治ることは難しく、一生つきあわなければならない病気です。しかし適切なケアを行えば、浮腫を軽減させたり、悪化を予防することができます。

当外来では、医療リンパドレナージセラピスト（外来担当看護師）がリンパ浮腫ケアを行っています。患者様の価値観やライフスタイルを大切にしながら、浮腫とうまく付き合っていくように支援することを目指しています。

★施術内容

- ・スキンケア
- ・医療徒手リンパドレナージ（セラピストによるマッサージ）
- ・圧迫療法（弾性包帯または弾性着衣の処方）
- ・運動療法、セルフケア、日常生活指導

【医療徒手リンパドレナージ】



【初回受診時】



- ①太もも -8cm
②ふくらはぎ-9.5cm
③足首 -3cm



【施術10回実施後】



【圧迫療法】



★受診の流れ

1. 事前にお電話でご確認の上、ご予約が必要です。
2. 初回来院時にはリンパ浮腫ケア外来の適応を判断するために、医師の診察を受けていただき適応が判断された場合、リンパ浮腫ケア外来の受診をしていただきます。
3. 2回目以降の受診は予約制となってあります。

★外来日：月～金 15:00～17:00

詳しい内容は、札幌社会保険病院 リンパ浮腫ケア外来へお問い合わせください

電話番号 011-893-3000

あつこい in 札幌社会保険総合病院

医療情報管理室
早川華枝

6月11日(土) 15時から当院エントランスホールにて、厚別のよさこいイベント「あつこい」が行われました。

今年からYOSAKOIソーラン祭りの新札幌会場がなくなってしまい、でも厚別でよさこいを見たいという声から「あつこい(厚別よさこい)」というイベントが企画されたそうです。

イベントには、よさこいチーム、歌、パフォーマンスチームなど様々なジャンルが出演していました。



まず初めに、【南中魂道～soul line～極め組】が南中ソーランを踊り、黒の衣装とキレのある踊りがとてもかっこよく、会場の目を引き付けていました。



次に、【Power of songs】による歌を聴き、会場のみなさんと一緒に歌う場面もあり、楽しかったです。そして、今度は【厚別区PTA連合会よさこいチーム】による南中ソーランです。このチームは小中学生からなるチームなので、かわいらしさがあり、【南中魂道～soul line～極め組】の南中ソーランとはまた違うものに感じられました。



そして、このイベントに共感して参加することになった【もえぎ色女学院】は、元気いっぱいのパフォーマンスで、ピンクリボンの啓発運動についてもPRしていました。



最後に、【厚別区PTA連合会のよさこいチーム】がよっちょれを踊り、途中曲が飛んでしまうというハプニングもありましたが、とても楽しいイベントでした。



来年以降も継続して開催されることを楽しみにしています！

編集後記

北海道もさわやかな、いい季節を迎えました。ピアガーデンのオープンが待ち遠しくなる今日この頃です。昨年の夏は猛暑でした。全国的にみると、電力不足などの不安はありますが、今年はどんな夏になるのでしょうか。短い北海道の夏、少しあはれ日もあったらしいなどつい考えてしまいます。

3月の大地震から、はや3ヶ月。自然の猛威に慄きながらも、時は駆け足で過ぎていきます。災害は忘れた頃にやってくるものであり、明日は我が身かもしれません。備えあれば憂いなし。日々、備えたいものです。(小竹記)
編集委員 相川・長瀬・吉田・嶋宮・中野渡・市川・奥田・楠・小竹・北村・早川